

認定こども園 星の子保育園
令和5年度 自己評価・施設関係者評価 報告書

1. 園の教育目標

<教育・保育方針>

- ・子ども一人ひとりを大切にせる教育・保育
- ・子どもたちのより良い今と未来につながる生きる力を育む

<具体的な目標>

- ・主体的・意欲的に行動できる力を身に付ける
- ・遊びや活動を通して総合的な生きる力を育む
- ・社会の一員として望ましい資質（社会性）を育む
- ・基本的生活習慣の自立を育む

2. 施設関係者評価委員会の総評

令和5年3月8日に評価委員6名が同席の上公開保育を実施するとともに、今年度の本園における目標と取り組み状況の聞き取りを含めて施設関係者評価を行った。

園内は、“子どもと保育者の楽しい！”が至るところに見られ、見学をしても、大人も思わずじっと見たり、手に取ったりするなど、興味や好奇心を持つ環境が構成されていた。また、部屋の天蓋の高さや場所、部屋の配色、子どもが製作したものをさりげなく置くなど、落ち着いた心地良さの中にあたたかさを感じることもできた。

園庭や室内で子どもが好きな遊びをし、自分のしている遊びを見学者の私たちに誇らしげに話す場面が何度も見られ、夢中で楽しんでいる様子が伺えた。また、保育者も子どもの様子も交えながら導入部分から保育の特徴などを楽しそうに且つ丁寧に話される姿は、重責を担う保育の中でも、仕事にやりがいなどが感じられ、生き生きと保育されていた。

保育者は温かい眼差しでその様子を見守りつつ、的確なタイミングで子ども達の遊びが発展する要素を与えている。その様子は押しつけがましくなく、子どもが自分で気付いたと思えるような何気ない声かけである。本当に必要なタイミングで紡がれるその言葉が、「見守る」という本来の意味を体現しているようで大いに関心させられた。

また、驚くほど静かな園内も保育者のスタンスの賜物だろうと感じた。言葉遣い、動き、子どもへのかかわりなど全てが丁寧であるため、自ずと子どもの所作も丁寧になっていったのであろうと推察される。

今後とも弛まず、多くの園の目標としてあり続けることを切に願うばかりである。

3. 本年度重点的に取り組む目標（評価項目）と自己評価及び取り組み状況

	目標・取組内容（評価項目）	評価	取り組み状況
1	こどもの意思と自己決定を尊重する保育。	A	園内研修で本取り組みに係る内容を保育者と共有し、クラスミーティング等で随時話題にしながら、こどもの意思と自己決定の尊重について、皆が考え、保育に取り組むことができた。 今年度の取り組みを継続、発展させて、次年度へつなげていきたい。
2	地域環境を子どもの学びのフィールドにする	A	5歳児、4歳児を中心として、神社・商店・大学など様々な街の環境を探索し、多くの刺激を得て、園での遊びに発展させる姿がみられた。次年度は人員配置や、園外保育の計画的な運用を行い、より一層充実させたい。
3	保育に関する記録のあり方の検討・見直し	A	本園においては、保育の計画や記録様式のあり方について、これまでも検討を重ね、園独自に改訂を行ってきた。 こどもの View（意見）を日々保育者は探し、周囲の保育者との対話の中で、子ども理解を深めることに取り組んだ。